

せいひつ
静謐と賑わい

私たちのここ数年のコロナ生活で明らかになったのは、社会という魂胆とした大きな存在からそっと距離を置き、【静謐】な時間を過ごす空間と時に人と繋がり話をして【賑わい】の時間を過ごす空間の二つの相反する側面が暮らしの中には必要であり、どちらも大切であるということである。

そこで、そんな相反する側面に柔軟に対応するためのおおらかで木質の感じる優しい暮らしの器とそれに寄り添うように【静謐】な時間をより特別なものにするための“野生の庭”と【賑わい】の時間を趣味に寄り添いより特別なものにするため“人工の庭”を設え、その隙間に生活を拡張する要素を挟み込んだ平屋住宅の提案である。



静謐：遠くの鳥の囀りや虫たちの音色を楽しむ家族だけの静かな時間を過ごすときは、野生の庭の開口を開放する



賑わい：地方特有のコミュニティを受け入れ、皆さんで会話を楽しみ、菜園を行う楽しい時間を過ごすときは、人工の庭の開口を開放する

